

様式1

大学等名	大阪学院大学
プログラム名	OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム

プログラムを構成する授業科目について

- ① 教育プログラムの修了要件
- ② 対象となる学部・学科名称
- 学部・学科によって、修了要件は相違しない

- ③ 修了要件
- 「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を構成する科目「AI活用入門A」(1単位)と「AI活用入門B」(1単位)の合計2単位を修得すること。「AI入門演習」(2単位)の履修は任意とする。

必要最低科目数・単位数

2 科目

2 単位

履修必須の有無

令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

- ④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
AI活用入門A	1	○	○	○					
AI活用入門B	1	○	○						

- ⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
AI活用入門A	1	○	○	○					
AI活用入門B	1	○		○					

- ⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
AI活用入門B	1	○	○	○					

- ⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
AI活用入門A	1	○	○	○					
AI活用入門B	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
AI活用入門A	1	○	○	○	○						
AI活用入門B	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
AI入門演習	4-3データ構造とプログラミング基礎		
AI入門演習	4-7データハンドリング		
AI入門演習	4-8データ活用実践(教師あり学習)		
AI入門演習	4-9データ活用実践(教師なし学習)		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会「AI活用入門A」(2回目) ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「AI活用入門B」(1回目)
	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル(商品のレコメンデーションなど)「AI活用入門A」(4回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ「AI活用入門A」(3回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(消費、文化活動など)「AI活用入門A」(4回目) ・研究開発、判断支援「AI活用入門B」(6回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・非構造化データ処理:画像処理、音声処理「AI活用入門B」(3回目及び4回目)
	1-5	AI利活用事例紹介「AI活用入門B」(6回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「AI活用入門A」(7回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則 (GDPR)「AI活用入門B」(7回目)
	3-2	・暗号化、パスワード「AI活用入門A」(7回目) ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「AI活用入門B」(7回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの分布、データのばらつき「AI活用入門A」(6回目) ・脱落を含むデータ、観測データに含まれる誤差の扱い「AI活用入門B」(5回目)
	2-2	・データ表現 (棒グラフ、折れ線グラフ、散布図)「AI活用入門A」(6回目) ・データの図表表現 (チャート化)「AI活用入門B」(5回目)
	2-3	・データの集計・データ解析ツール (スプレッドシート)「AI活用入門A」(6回目) ・データ解析ツール (スプレッドシート)「AI活用入門B」(6回目)

⑪ プログラムの学修成果 (学生等が身に付けられる能力等)

「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」では、これからの社会が求める次の能力を身に付けることを目標とする。具体的には①新しい価値の創造に主体的に関わる力、②AIリテラシー力、③情報活用力である。また、次の3点を学修成果としている。 1. 数理・データサイエンスやAIについての基礎的知識を修得し、さらにこれらを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付ける。 2. 現代における数理・データサイエンス・AIの役割について理解して、説明できる。 3. 数理・データサイエンスやAIを利活用する際の留意すべき事項 (個人情報、データ倫理など)を理解して、説明できる。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「**数理・データサイエンス・AI (リテラシーレベル) モデルカリキュラム改訂版**」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業 (授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
・ChatGPTや画像生成AIを実際に使用するデモンストレーションを行った。「AI活用入門A」 ・知的財産権に留意して生成AIを利用する必要があることを強調した。「AI活用入門B」

プログラムの履修者数等の実績について

- ①プログラム開設年度

令和5

年度
- ②大学等全体の男女別学生数 男性

4281

人 女性

1551

人 (合計

5832

人)
- ③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
商学部	690	150	600	14	2											14	2%
経営学部	1,709	380	1,520	45	3											45	3%
経済学部	1,634	400	1,600	48	11											48	3%
法学部	598	150	600	3	0											3	1%
外国語学部	421	120	480	5	0											5	1%
国際学部	313	80	320	2	0											2	1%
情報学部	467	100	400	0	0											0	0%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合 計	5,832	1,380	5,520	117	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	117	2%

大学等名 大阪学院大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 160 人 (非常勤) 137 人

② プログラムの授業を教えている教員数 4 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 白川 雄三

(役職名) 教育開発支援センター所長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

教育開発支援センター

(責任者名) 白川 雄三

(役職名) 教育開発支援センター所長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部 教育開発支援センター規程

⑥ 体制の目的

本学における「数理・データサイエンス・AI教育」の推進にあたっては、令和元(2019)年11月1日に教育開発支援センターを担当部局として時限的な検討組織(全学AI教育推進会議)が設置された。令和2(2020)年4月に共通科目に3つのAI関連科目が設置された後、推進会議の機能は、大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部 教育開発支援センター規程第6条第5項「センター会議は、必要に応じて専門部会を設けることができる。」に基づき、教育開発支援センター会議の下に設ける専門部会へ引き継がれた。現在は「全学AI教育推進会議(専門部会)」として引き続き、教育開発支援センターが運営中である。教育開発支援センターは、この専門部会の運営を通じ、「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の企画・運営およびプログラム改善に向けた提言を行うことで、本学における「数理・データサイエンス・AI教育」を改善・進化させることを目的としている。

⑦ 具体的な構成員

白川 雄三(教育開発支援センター所長、経済学部教授)
後藤 登(教育開発支援センター副所長、経営学部教授)
後藤 晃範(教育開発支援センター副所長、短期大学部経営実務科教授)
上原 邦昭(教育開発支援センター所員、経営学部教授)
佐野 薫(教育開発支援センター所員、経済学部准教授)
神谷 善弘(教育開発支援センター所員、外国語学部准教授)
中 則夫(教育開発支援センター所員、国際学部准教授)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	2%	令和6年度予定	30%	令和7年度予定	50%
令和8年度予定	80%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	5,520
具体的な計画					
・現在、後期に1クラスずつ開講されている「AI活用入門A」と「AI活用入門B」を、令和6(2024)年度より3クラスずつ開講し、履修者数の増加を図る。 ・令和7(2025)年度からは現在後期のみに開講されているこれらの科目を、前期にも開講し、さらなる履修者数の増加を図る。 ・「AI活用入門A」と「AI活用入門B」の両方を合格すると修了証が交付され、この修了証交付を学修への動機付けとして、履修者数の増加を図る。 ・「AI入門演習」においては、「AI活用入門A」と「AI活用入門B」の履修を前提とし、人工知能技術の中核的技術である、機械学習の技術を中心に紹介し、簡単な演習を通して人工知能の技術について理解を深めていき、より高度な授業も履修できることを周知し、さらなる受講者数の増加を図る。 ・「様式2」では情報学部履修者が0名となっている。改善方策として、情報学部の専攻科目「人工知能基礎」に先行して履修すべき科目として「AI活用入門A」と「AI活用入門B」を履修するよう、情報学部1年次生の履修登録時に指導する。					

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

・「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を構成する3科目は、全て、学部・学科を問わず全学生に対して提供されている「共通科目」の「実務基礎」区分に位置づけられている。 ・令和6(2024)年度は教員増員によるクラス増を行うが、最終的に履修者を100%に近づけるため、令和7(2025)年度以降において、オンライン形式での開講や、一部カリキュラムにおける必修化についても検討する。 ・開講クラス数を増加することにより、必修科目と重なって履修できなかった学生が履修可能となり、履修機会の増加が図られる。 ・「全学AI教育推進会議(専門部会)」において、当プログラム科目の学生の受講希望状況を注視し、受講を希望する全ての学生が履修登録できるよう開講コマ数や開講方法について検討・調整する予定である。
--

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

・教授会において、ゼミナール担当教員に対し、担当学生への呼びかけを依頼する。 ・「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に関する情報が一元的に取得できるよう、令和6(2024)年4月上旬より、公式ホームページに「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」専用ページを設置している。 ・「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の案内チラシを作成し、オリエンテーション時に配付する。1年次第1タームに開講する初年次教育科目「フレッシュマンスキル」の第7回目授業に授業担当者が訪問してプレゼンテーションを行い、後期の履修を促す。 ・「2025 CAMPUS GUIDE」(大学案内)において「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」について掲載し、受験生に対して周知を図る。 ・併設高等学校との高大連携制度を活用し、イベント等を通して併設高等学校の生徒に対し本学の「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」について周知を図る。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

学生へのサポートは、技術面は学内パソコンサポート施設である「MELOP」で、学修面は学習支援室がこれにあたる。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学で使用しているLMS「OGU-Caddie」の質問システムにより、授業時間外でも質問可能である。また、学生へのサポートは、技術面は学内パソコンサポート施設である「MELOP」で、学修面は学習支援室にあたる。令和6(2024)年度より、「AI活用入門A」および「AI活用入門B」を担当する教員が学習支援室に在室することにより、授業時間外においても個別サポートが随時可能である。（「OGU-Caddie」は、大阪学院大学におけるLearning Management Systemで、e-Learningを実施するための機能である。学生がスマートフォンやパソコンでインターネットを使用して学修するための受講機能や教員が学生を管理するための管理機能を備えている。）

大学等名 大阪学院大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

全学AI教育推進会議（専門部会）

（責任者名）白川 雄三

（役職名）議長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は令和5(2023)年度から開始され、プログラム履修者は23年度生の117名である。また、プログラム修了条件となる「AI活用入門A」および「AI活用入門B」の両方の合格者は、117名のうち16名(合格率13.7%)であった。これは、このプログラムが開始されたばかりであるので、学生にあまり認知されていないためであると言える。今後、オリエンテーションなどを通じて、周知徹底を図っていきたい。また、「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を修了した23年度生16名に対し、修了証を発行したが、今後「オープンバッジ」の導入も含め、学生の将来に役立つよう、検討を進める。
学修成果	学修成果の把握、可視化について、直接評価と間接評価をあわせて多面的に行っている。試験、提出課題、ルーブリック、授業評価等による総合評価(100点満点)により把握している。直接評価としては、試験や小テストを行っている。特にLMSであるOGU-Caddieを使用した小テストは「AI活用入門A」及び「AI活用入門B」において、毎回行っている。また間接評価としては、学生による授業評価とルーブリック評価を行っている。「AI入門演習」は少人数を前提とした実践中心の授業内容となっている。この特性を活かして、個々の学生の理解度を直接確認しながら演習を進めている。また、知識の定着と確認のため、毎回小テストもしくは実験レポートを課している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	令和5(2023)年度の授業評価アンケートによると「AI活用入門A」における学生の理解度は、5段階の中で3.9である。この値は平均以上であるが、さらに向上させていきたい。「AI活用入門B」における学生の理解度は、「AI活用入門A」と同じく5段階の中で3.9である。しかし、最終レポートの内容における学生の考察は、あまり深く踏み込んだものとはなっていないため、個々のスキルアップがなされるように指導していきたい。「AI入門演習」では、学生の理解度は受講者全員が5段階中の5と回答した。この高いスコアを維持できるよう努めたい。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	今後、学生アンケートに「後輩等他の学生への推奨度」を測定する項目を導入して、計測する予定である。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	全学的な履修者数、履修率の向上については、令和6(2024)年度より、「AI活用入門A」1クラスを3クラスに、「AI活用入門B」1クラスを3クラスに、合計6クラスへ増加した。これにより履修者数を大幅に増加させることができる。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	現在、教育プログラムが開始されたばかりであり、修了者の進路、活躍状況、企業等の評価はできていない。今後、このプログラムを履修して修了証を取得した学生の卒業後の進路・就職状況を把握するシステムを構築する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学では、平成21(2009)年7月に企業経営に携わる大阪学院大学卒業生を主な会員として、「大阪学院フェニックス倶楽部」が設立された。倶楽部の設立以降、会員相互の交流を通じ、在学生のキャリア形成支援、地域社会への貢献活動を実践しており、近年は「社長直伝プログラム」、「後継者育成支援講座」、「ビジネス交流会」などが活発に行われている。そこで、「大阪学院フェニックス倶楽部」からの本プログラムへの意見聴収や、外部評価の機会を得ることにより、産業界からの視点を含めた教育プログラムの改善に役立てたい。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	授業において、実際にChatGPTや画像生成AIを使用することにより、学生の興味を引くと共に、「学ぶ楽しさ」を理解させる。また、こうしたAIが実際に企業において利用されていることを教えて、この技術が社会に役立つことを理解させて、「学ぶことの意義」をも理解させる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	「全学AI教育推進会議(専門部会)」において教育プログラムの改善の検討を行い、LMSであるOGU-Caddieや動画を活用することで、授業のハイブリッド化を積極的に推進し、学生の注意を効果的に惹きつける。教育改善活動として、教育開発支援センター主催により令和5(2023)年度第1回FD・SD講演会を「AIの進化と大学の教育・研究」と題して開催し、校内教職員の理解を深める機会とした。また、同年11月には「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」近畿ブロックへ加入した。さらに文部科学省から発表された「大学・高専における生成AIの教学面の取扱いについて」を受け、教職員向け、在学生向けの方針を策定し、公表、周知している。

講義名	A I 活用入門 A 201		
開講責任部署	大阪学院大学		
講義開講時期	第3ターム	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	7.00
開講年度	2023		
配当年次	1		
曜日講時	火3		

担当教員

氏名

◎ 白川 雄三

講義(演習)テーマ	AIとデータサイエンスを理解し活用する
講義(演習)概要	目的としては、AI活用できる人材として社会で活躍するための基礎的な知識を、修得することです。そして、Society5.0などの産業構造の変化や、今後必要とされるスキルなど社会背景に関する知識、AI技術に関する基礎知識、AIを活用するために必要な基礎知識を学びます。
卒業認定・学位授与の方針との関連	養成する能力 ◎社会人として必要な素養と豊かな人間性を身につけている。 ◎獲得した知識・技能を活用する態度や行動力を身につけている。 ※◎、○、△は関連性を示す。
到達目標	1. AI活用できる人材として社会で活躍するための基礎的な知識を、修得すること。 2. Society5.0などの産業構造の変化や、今後必要とされるスキルなど社会背景に関する知識を、修得すること。 3. AI技術に関する基礎知識、AIを活用するために必要基礎知識を、修得すること。

講義スケジュール(授業計画)

回	内容
第1回	AIリテラシーとは
第2回	社会でどのような変化がおきているか
第3回	社会でどのような変化がおきているか
第4回	データ・AIを何に使えるか
第5回	データ・AIの技術
第6回	実際のデータを分析する。吹田市役所 行政経営部企画財政室 総合計画グループが本学で行ったアンケート調査のデータを使い、データ分析を行う。吹田市が現在直面する課題解決に資するため、データサイエンス教育の一環として、本学学生の吹田に関する意識を実際のデータに用いて分析を行い、吹田市の課題解決の一助とする。
第7回	データ・AIを扱うときに注意すること
評価基準・方法	定期試験:65%、レポート・小テスト:35% その他:0% 毎回の授業時に小テストを行う。OGU-Caddie で説明を行う。
授業外学習の指示	授業毎に1時間の予習復習が必要である。
履修上の注意	AI活用入門Bの履修をお勧めします。
オフィスアワー	4月に学生ホームページに掲載する。
教科書	岡嶋裕史、吉田雅裕「はじめてのAIリテラシー」技術評論社 ISBN978-4-297-12038-2 C3055

参考文献	使用しない
担当者からの一言	出席を重視します。



✕ ウィンドウを閉じる

講義名	A I 活用入門 B 201		
開講責任部署	大阪学院大学		
講義開講時期	第4ターム	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	7.00
開講年度	2023		
配当年次	1		
曜日講時	金3		

担当教員

氏名

◎ 藤田 靖

講義(演習)テーマ	AI（人工知能）を活用できる人材として、社会で活躍するためのAIの知識を修得する。
講義(演習)概要	AIは、理系の学生だけでなく、文系の学生にも必須の知識・技術である。AIは、さまざまな分野に適用され、急速にわれわれの生活になくてはならないものになっている。このため、AIを理解でき、活用できる人材の育成が急務とされている。 本講義では、AIの歴史・機械学習手法からはじめて、画像認識・音声認識・自然言語理解・ロボットなどの各分野におけるAI技術について説明する。また、AIシステムの構築方法、AIシステムの応用事例、AIの普及によって生じるさまざまな社会問題についても説明する。
卒業認定・学位授与の方針との関連	養成する能力 ◎社会人として必要な素養と豊かな人間性を身につけている。 ◎獲得した知識・技能を活用する態度や行動力を身につけている。 ※◎、○、△は関連性を示す。
到達目標	・ 機械学習手法の分類・ディープラーニング・強化学習について説明できる。 ・ 画像認識・音声認識・自然言語処理について説明できる。 ・ AIシステムの構築方法と応用事例について理解する。 ・ AIの社会への影響について説明できる。

講義スケジュール（授業計画）

授業の進め方：毎回、講師がCaddie上にアップロードした資料を用いて、授業を行う。毎回課題のレポートの提出を求める。本講義は、IT業界での40年間の実務経験を元に、具体的・実践的に進める。

回	内容
第1回	AIの定義・歴史
第2回	ニューラルネットワークとディープラーニング
第3回	画像認識
第4回	音声認識・自然言語理解・強化学習（ロボティクス）
第5回	AIシステムの構築方法
第6回	AIの応用事例
第7回	AIと社会

評価基準・方法	定期試験：0% レポート：50% 講義内の毎回のレポートの講評は、次回以降の授業内で行う。 日常点：50% 小テストを実施する。小テストの寸評は、テスト実施日の次回以降の講義日で行い、フィードバックする。 その他：0%
授業外学習の指示	・ Caddieで配布する次回の授業資料を予習しておくこと（2時間） ・ 講義資料を見て復習すること（2時間）

履修上の注意	・ AIに関するニュース記事・解説を読んでほしい。 ・ AI用語を各自で調べてほしい。 ・ できる限り遅刻、欠席をしないようにすること。
オフィスアワー	4月に学生ホームページに掲載する。
教科書	使用しない
参考文献	授業中に指示する
関連URL	授業中に指示する
担当者からの一言	・ AIスキルは、今後の社会人の必須スキルです。できるかぎり、身につけてください。 ・ 授業についての連絡は、caddieの「掲示板」・「お知らせ発信」機能を使用して行います。



✕ ウィンドウを閉じる

講義名	A I 入門演習201		
開講責任部署	大阪学院大学		
講義開講時期	第3ターム	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	7.00
開講年度	2023		
配当年次	2		
曜日講時	月2・火1		

担当教員

氏名

◎ 淡 誠一郎

西田 知博

講義(演習)テーマ	データサイエンスと人工知能の基礎演習
講義(演習)概要	近年の人工知能技術の発展には目を見はるものがあります。今後急速に社会に浸透し、私たちの生活に大きく影響を与えることは間違いありません。人工知能は従来人が行ってきた知的営みを機械で肩代わりさせる技術です。このため、みなさんが将来どういう分野に進むにしても、なんらかのかかりを持つことになるでしょう。 この講義を受講しようとするみなさんは、先行する人工知能の基礎科目をすでに受講し、基礎的な知識は身につけているものと思います。この講義では、それを前提とし、人工知能技術の中核的技術である、機械学習の技術を中心に紹介し、簡単な演習を通して人工知能の技術について理解を深めてもらいたいと思います。
卒業認定・学位授与の方針との関連	養成する能力 ○社会人として必要な素養と豊かな人間性を身につけている。 △組織・社会における協調性、協働性、規範意識や責任を身につけている。 ◎獲得した知識・技能を活用する態度や行動力を身につけている。 ※◎、○、△は関連性を示す。
到達目標	・人工知能技術のうち、データサイエンスと機械学習にかかわる諸技術の概要を理解する。 ・ニューラルネットワークの学習の仕組みや深層学習の意義について理解する。 ・クラスタリング、決定木、自己組織化マップ、深層学習に関するPythonプログラムが理解でき、それらの簡単な応用ができるようになる。

講義スケジュール（授業計画）

データサイエンスや機械学習に関わるトピックを取り上げて、解説した後に演習という流れで進めていきます

回	内容
第1回	イントロダクション 人工知能と機械学習
第2回	Python 入門（演習）
第3回	クラスタリング（演習含む）
第4回	決定木の学習
第5回	決定木の学習（演習）
第6回	自己組織化マップ
第7回	自己組織化マップ（演習1）
第8回	自己組織化マップ（演習2）
第9回	深層学習と畳み込みニューラルネットワーク
第10回	畳み込みニューラルネットワークによる一般画像認識 —CIFAR10—（演習）

第11回	畳み込みニューラルネットワークによる一般画像認識 ―独自データセットの作成―（演習）
第12回	畳み込みニューラルネットワークによる一般画像認識 ―自主設定実験―（演習）
第13回	畳み込みニューラルネットワークの実験のまとめ
評価基準・方法	日常点：60% Caddie小テスト・演習結果の報告などで評価します。 最終レポート：40% 提出・評価・講評にはOGU-Caddieを用います。 最後の演習は4回にまたがります。途中無断欠席したりすると実験が完結できず、最終レポートが書けなくなります。成績評価においてウェイトが大きいので、まじめに取り組んでください。
授業外学習の指示	なるべく多くの演習時間が取れるよう、説明は皆さんが下調べをしていることを前提に、必要最小限なものとなります。テーマとして取り上げる内容の下調をして授業に臨んでください（最低2時間程度）。授業時間内に課題が完了できなかった場合は、そのままにせず、時間外に最後までやり遂げてください。その時間も含め、毎週2時間程度は復習し、知識を定着させてください。 レポート作成は基本的に時間外に行ってください。再確認のための実験時間を含めて各3時間程度は必要です。
履修上の注意	・演習を通して機械学習の技術を深く理解することが目的です。基本的には1講時目が各トピックのイントロダクション、2講時に演習という流れで進めますが、1講時目にも計算機を使う解説や、演習の準備を行うことがあります。1講時を欠席すると2講時についていけなくなりますので、遅刻はしないようにしてください。 ・授業外の時間を使い課題を積極的に数多くこなす気持ちを持ってください。 ※ 講義スケジュールは、PC教室での対面授業を想定し、組み立てています。 社会環境ならびに演習環境の変化に応じて、演習内容を変更することがあります。 Caddieの掲示、お知らせは、こまめにチェックしてください。
オフィスアワー	4月に学生ホームページに掲載します。
教科書	使用しない。
参考文献	斎藤 康毅：『ゼロから作るDeep Learning——Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装』（オライリージャパン）ISBN978-4-87311-758-4



✕ ウィンドウを閉じる

【対象：23 年度以降入学生】

「OGU 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」について

1. 目 的

大学教育において、AI や IoT を使いこなすための知識・技能の養成が必要であり、また、社会がどのように変化しようとも、自ら考えて、目標を定めて課題を設定し、多様な人々と協働して知見や情報を組み合わせ、新しい価値の創造に主体的に関わろうとする人材の育成が求められている。本学の共通科目における「基盤的プログラム」として、これからの社会が求めるイノベーションを支える人材育成を図るとともに、特に人文・社会科学系の学生の AI リテラシー力および情報活用力を強化することを目的とする。

2. 教育目標

これからの社会が求める次の能力を身に付けることを目標とする。

- (1) 新しい価値の創造に主体的に関わる力
- (2) AI リテラシー力
- (3) 情報活用力

3. 対象年度および科目

対象年度：2023 年度以降入学生を対象とする。

プログラム科目：「共通科目」の「実務基礎」区分の 3 科目

「OGU 数理・データサイエンス・AI プログラム」科目

科目名	単位数	配当年次
AI 活用入門 A	1	1 年次
AI 活用入門 B	1	1 年次
AI 入門演習	2	2 年次

4. プログラム修了要件

- (1) 「AI 活用入門 A」と「AI 活用入門 B」を修得すること（「AI 入門演習」の修得は任意）。
- (2) 短期大学部の学生で「OGU 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の履修を希望する者は、単位互換により履修することができる。
- (3) プログラム修了者には、「修了証」を与える。

以 上

授 業 科 目 一 覧

〔共通科目〕

	1年次配当科目				2年次配当科目				3年次配当科目				卒業必要単位数
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
初年次教育	OGU教育 フレッシュマンスキル	1 1											1年次前期に「OGU教育」「フレッシュマンスキル」を履修すること。 修得した単位は、卒業単位数に充当できる。
教養	哲学	2	心理学	2	○インターンプログラムⅡ	2							10単位以上
	倫理	2	物理学	2	○海外研修Ⅱ	2							
	宗教	2	化学	2	人文芸術基礎探究	2							
	歴史	2	コンピュータ演習	2	人文芸術実践探究	2							
	文学	2	健康科学論	2	人文芸術PBL学習	2							
	国語	2	スポーツ科学論	2	社会科学基礎探究	2							
	文化	2	スポーツ文化論	2	社会科学実践探究	2							
	経済	2	スポーツ学A	1	社会科学PBL学習	2							
	法	2	スポーツ学B	1	自然科学基礎探究	2							
	現代	2	スポーツ学C	1	自然科学実践探究	2							
	社会	2	吹田講義	2	自然科学PBL学習	2							
	政治	2	教養特別講義A	2	スポーツ健康科学基礎探究	2							
	数学	2	教養特別講義B	2	スポーツ健康科学実践探究	2							
	生物	2	○ボランティア研修	2	スポーツ健康科学PBL学習	2							
	地球と宇宙の科学	2	○インターンプログラムⅠ	2									
	地理	2	○海外研修Ⅰ	2									
	統計	2	リベラルアーツ入門	2									
言語	*英語	A 1	実践英語	A 2									1外国語4単位(*印の科目を修得)以上
	*英語	B 1	実践英語	B 2									
	*英語	C 1	実践英語	C 2									
	*英語	D 1	実践英語	D 2									
	*ドイツ語入門Ⅰ	2	ドイツ語応用A	2									
	*ドイツ語入門Ⅱ	2	ドイツ語応用B	2									
			ドイツ語応用C	2									
			ドイツ語応用D	2									
	*フランス語入門Ⅰ	2	フランス語応用A	2									
	*フランス語入門Ⅱ	2	フランス語応用B	2									
			フランス語応用C	2									
			フランス語応用D	2									
	*中国語入門Ⅰ	2	中国語応用A	2									
	*中国語入門Ⅱ	2	中国語応用B	2									
語			中国語応用C	2									
			中国語応用D	2									
	*韓国語入門Ⅰ	2	韓国語応用A	2									
	*韓国語入門Ⅱ	2	韓国語応用B	2									
			韓国語応用C	2									
			韓国語応用D	2									
					特修外国語A	2							
					特修外国語B	2							
	*日本語Ⅰ	2											外国人留学生および帰国子女対象の科目
	*日本語Ⅱ	2											
実務基礎	キャリアデザイン入門Ⅰ	2	生涯スポーツ指導論	2	キャリアデザイン入門Ⅱ	2	キャリアデザインⅢ	2					修得した単位は、卒業単位数に充当できる。
	税務・会計入門Ⅰ	2	生涯スポーツ習概論	2	キャリアデザインⅠ	2							
	財務・会計入門Ⅱ	2	図書館概論	2	キャリアデザインⅡ	2							
	不動産学入門A	2	博物館概論	2	AⅠ入門演習	2							
	不動産学入門B	2	日本語教育概論	2									
	不動産鑑定理論入門	2	行動科学概論A	2									
	IT実務入門	2	行動科学概論B	2									
	公務員入門	2	AⅠ活用入門A	1									
	スポーツ指導論	2	AⅠ活用入門B	1									
	アスリート指導論	2											

- 注) 1. *印の科目は、必修科目を示す。
2. 「リベラルアーツ入門」を修得済み又は同時履修をしなければ、「人文芸術基礎探究・実践探究・PBL学習」「社会科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「自然科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「スポーツ健康科学基礎探究・実践探究・PBL学習」を履修できない。
3. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、入門Ⅰを修得しなければ、原則として入門Ⅱを履修できない。
4. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、A～Dを履修するには原則として入門Ⅰを修得済み又は、同時履修をしなければならない。
5. ○印の科目は集中講義を示し、履修するには各科目で実施する説明会への参加が必要である。
6. 「AI活用入門A」「AI活用入門B」の単位を修得しなければ「AI入門演習」を履修できない。

授 業 科 目 一 覧

〔共通科目〕

	1 年次配当科目				2 年次配当科目				3 年次配当科目				卒 業 必 要 単 位 数
	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	
教 初 年 育 次	0 G U 教 育	1											1年次前期に履修すること。 修得した単位は、卒業単位数に充当できる。
	フ レ ッ シ ュ マ ン ス キ ル	1											
教 養	哲 倫 理 学	2	物 理 学	2	○インターンプログラムⅡ	2							10単位以上
	宗 教 学	2	化 学	2	○海外研修Ⅱ	2							
	歴 史 学	2	コ ン ビ ュ ー タ 演 習	2	人 文 芸 術 基 礎 探 究	2							
	文 学	2	健 康 科 学 学 論	2	人 文 芸 術 実 践 探 究	2							
	国 語 と 芸 術	2	ス ポ ー ツ 科 学 学 論	2	人 文 芸 術 P B L 学 習	2							
	文 化 と 社 会	2	ス ポ ー ツ 文 化 論	2	社 会 科 学 基 礎 探 究	2							
	経 済 と 社 会	2	ス ポ ー ツ A	1	社 会 科 学 実 践 探 究	2							
	法 則 と 社 会	2	ス ポ ー ツ B	1	社 会 科 学 P B L 学 習	2							
	現 代 会 法	2	ス ポ ー ツ C	1	自 然 科 学 基 礎 探 究	2							
	社 会 治 理	2	吹 養 特 別 講 義	2	自 然 科 学 実 践 探 究	2							
	政 治 学	2	教 養 特 別 講 義	2	自 然 科 学 P B L 学 習	2							
	数 学	2	○ボランテニア研修	2	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 基 礎 探 究	2							
	生 物 学	2	○インターンプログラムⅠ	2	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 実 践 探 究	2							
	地 球 と 宇 宙 の 科 学	2	○海外研修	2	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 P B L 学 習	2							
	地 理 学	2	リベラルアーツ入門	2									
	統 計 学	2											
	心 理 学	2											
言 語	* 英 語 A	1	実 践 英 語 A	2									1外国語4単位（*印の科目を修得）以上
	* 英 語 B	1	実 践 英 語 B	2									
	* 英 語 C	1	実 践 英 語 C	2									
	* 英 語 D	1	実 践 英 語 D	2									
	* ドイツ語入門Ⅰ	2	ド イ ツ 語 応 用 A	2									
	* ドイツ語入門Ⅱ	2	ド イ ツ 語 応 用 B	2									
			ド イ ツ 語 応 用 C	2									
			ド イ ツ 語 応 用 D	2									
	* フランス語入門Ⅰ	2	フ ラ ン ス 語 応 用 A	2									
	* フランス語入門Ⅱ	2	フ ラ ン ス 語 応 用 B	2									
			フ ラ ン ス 語 応 用 C	2									
			フ ラ ン ス 語 応 用 D	2									
	* 中国語入門Ⅰ	2	中 国 語 応 用 A	2									
	* 中国語入門Ⅱ	2	中 国 語 応 用 B	2									
実 務 基 礎	* 韓国語入門Ⅰ	2	韓 国 語 応 用 A	2									修得した単位は、卒業単位数に充当できる。
	* 韓国語入門Ⅱ	2	韓 国 語 応 用 B	2									
			韓 国 語 応 用 C	2									
			韓 国 語 応 用 D	2									
					特 修 外 国 語 A	2							
					特 修 外 国 語 B	2							
	* 日本語Ⅰ	2											
	* 日本語Ⅱ	2											
	キャリアデザイン入門Ⅰ	2	生 涯 ス ポ ー ツ 指 導 論	2	キ ャ リ ア デ ザ イン 入 門 Ⅱ	2	キ ャ リ ア デ ザ イン Ⅲ	2					
	税 務 ・ 会 計 入 門	2	生 涯 学 習 概 論	2	キ ャ リ ア デ ザ イン Ⅰ	2							
	財 務 ・ 会 計 入 門	2	図 書 館 概 論	2	キ ャ リ ア デ ザ イン Ⅱ	2							
	不 動 産 学 入 門 A	2	博 物 館 概 論	2	A I 入 門 演 習	2							
	不 動 産 学 入 門 B	2	日 本 語 教 育 概 論	2									
	不 動 産 鑑 定 理 論 入 門	2	行 動 科 学 概 論	2									
	I T 実 務 入 門	2	行 動 科 学 概 論	2									
	公 務 員 入 門	2	A I 活 用 入 門 A	1									
	ス ポ ー ツ 指 導 論	2	A I 活 用 入 門 B	1									
	ア ス リ ー ト 指 導 論	2											

- 注) 1. *印の科目は必修科目を示す。
2. 「リベラルアーツ入門」を修得済み又は同時履修をしなければ、「人文芸術基礎探究・実践探究・PBL学習」「社会科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「自然科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「スポーツ健康科学基礎探究・実践探究・PBL学習」を履修できない。
3. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、入門Ⅰを修得しなければ、原則として入門Ⅱを履修できない。
4. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、応用A～Dを履修するには原則として入門Ⅰを修得済み又は、同時履修をしなければならない。
5. ○印の科目は集中講義を示し、履修するには各科目で実施する説明会への参加が必要である。
6. 「AⅠ活用入門A」「AⅠ活用入門B」の単位を修得しなければ「AⅠ入門演習」を履修できない。

授 業 科 目 一 覧

〔共通科目〕

	1 年次配当科目				2 年次配当科目				3 年次配当科目				卒 業 必 要 単 位 数
	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	
教 初 年 育 次	0 G U 教 育	1											1年次前期に履修すること。 修得した単位は、卒業単位数に充当できる。
	フ レ ッ シ ュ マ ン ス キ ル	1											
教 養	哲 倫 理 学	2	物 理 学	2	○インターンプログラムⅡ	2							10単位以上
	宗 教 学	2	化 学	2	○海外研修Ⅱ	2							
	歴 史 学	2	コ ン ビ ュ ー タ 演 習	2	人 文 芸 術 基 礎 探 究	2							
	文 学	2	健 康 科 学 学 論	2	人 文 芸 術 実 践 探 究	2							
	国 語 と 芸 術	2	ス ポ ー ツ 科 学 学 論	2	人 文 芸 術 P B L 学 習	2							
	文 化 社 会	2	ス ポ ー ツ 文 化 論	2	社 会 科 学 基 礎 探 究	2							
	経 済 と 社 会	2	ス ポ ー ツ A	1	社 会 科 学 実 践 探 究	2							
	法 則 と 社 会	2	ス ポ ー ツ B	1	社 会 科 学 P B L 学 習	2							
	現 代 会 法	2	ス ポ ー ツ C	1	自 然 科 学 基 礎 探 究	2							
	社 会 治 理	2	吹 養 特 別 講 義	2	自 然 科 学 実 践 探 究	2							
	政 治 学	2	教 養 特 別 講 義	2	自 然 科 学 P B L 学 習	2							
	数 学	2	○ボランテニア研修	2	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 基 礎 探 究	2							
	生 物 学	2	○インターンプログラムⅠ	2	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 実 践 探 究	2							
	地 球 と 宇 宙 の 科 学	2	○海外研修	2	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 P B L 学 習	2							
	地 理 学	2	リベラルアーツ入門	2									
	心 理 学	2											
言 語	* 英 語 A	1	実 践 英 語 A	2									1外国語4単位（＊印の科目を修得）以上
	* 英 語 B	1	実 践 英 語 B	2									
	* 英 語 C	1	実 践 英 語 C	2									
	* 英 語 D	1	実 践 英 語 D	2									
	* ドイツ語入門Ⅰ	2	ド イ ツ 語 応 用 A	2									
	* ドイツ語入門Ⅱ	2	ド イ ツ 語 応 用 B	2									
			ド イ ツ 語 応 用 C	2									
			ド イ ツ 語 応 用 D	2									
	* フランス語入門Ⅰ	2	フ ラ ン ス 語 応 用 A	2									
	* フランス語入門Ⅱ	2	フ ラ ン ス 語 応 用 B	2									
			フ ラ ン ス 語 応 用 C	2									
			フ ラ ン ス 語 応 用 D	2									
	* 中国語入門Ⅰ	2	中 国 語 応 用 A	2									
	* 中国語入門Ⅱ	2	中 国 語 応 用 B	2									
実 務 基 礎	* 韓国語入門Ⅰ	2	韓 国 語 応 用 A	2									修得した単位は、卒業単位数に充当できる。
	* 韓国語入門Ⅱ	2	韓 国 語 応 用 B	2									
			韓 国 語 応 用 C	2									
			韓 国 語 応 用 D	2									
					特 修 外 国 語 A	2							
					特 修 外 国 語 B	2							
	* 日本語Ⅰ	2											
	* 日本語Ⅱ	2											
	キャリアデザイン入門Ⅰ	2	生 涯 ス ポ ー ツ 指 導 論	2	キ ャ リ ア デ ザ イン 入 門 Ⅱ	2	キ ャ リ ア デ ザ イン Ⅲ	2					
	税 務 ・ 会 計 入 門	2	生 涯 学 習 概 論	2	キ ャ リ ア デ ザ イン Ⅰ	2							
	財 務 ・ 会 計 入 門	2	図 書 館 概 論	2	キ ャ リ ア デ ザ イン Ⅱ	2							
	不 動 産 学 入 門 A	2	博 物 館 概 論	2	A Ⅰ 入 門 演 習	2							
	不 動 産 学 入 門 B	2	日 本 語 教 育 概 論	2									
	不 動 産 鑑 定 理 論 入 門	2	行 動 科 学 概 論	2									
	I T 実 務 入 門	2	行 動 科 学 概 論	2									
	公 務 員 入 門	2	A Ⅰ 活 用 入 門 A	1									
	ス ポ ー ツ 指 導 論	2	A Ⅰ 活 用 入 門 B	1									
	ア ス リ ー ト 指 導 論	2											

注) 1. ＊印の科目は必修科目を示す。
2. 「リベラルアーツ入門」を修得済み又は同時履修をしなければ、「人文芸術基礎探究・実践探究・PBL学習」「社会科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「自然科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「スポーツ健康科学基礎探究・実践探究・PBL学習」を履修できない。
3. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、入門Ⅰを修得しなければ、原則として入門Ⅱを履修できない。
4. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、応用A～Dを履修するには原則として入門Ⅰを修得済み又は、同時履修をしなければならない。
5. ○印の科目は集中講義を示し、履修するには各科目で実施する説明会への参加が必要である。
6. 「AⅠ活用入門A」「AⅠ活用入門B」の単位を修得しなければ「AⅠ入門演習」を履修できない。

授 業 科 目 一 覧

〔共通科目〕

	1 年次配当科目						2 年次配当科目		3 年次配当科目		卒業必要単位数	
	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位		
初年次 教 育	O G U 教 育 フレッシュマンスキル	1 1									1年次前期に履修すること。 修得した単位は、卒業単位数に充当できる。	
教 養	哲 学	2	地 理 学	2	○ボランティア研修	2	○インターンプログラムⅡ	2	6単位以上			
	倫 理 学	2	統 計 学	2	○インターンプログラムⅠ	2	○海外研修Ⅱ	2				
	宗 教 学	2	心 理 学	2	○海外研修Ⅰ	2	人文芸術基礎探究	2				
	歴 史 学	2	物 理 学	2	リベラルアーツ入門	2	人文芸術実践探究	2				
	文 学	2	化 学	2			人文芸術PBL学習	2				
	国 語 学	2	コ ン ピ ュ ー タ 演 習	2			社会科学基礎探究	2				
	文 化 と 芸 術 学	2	健 康 科 学 論	2			社会科学実践探究	2				
	経 済 と 社 会 学	2	ス ポ ー ツ 科 学 論	2			社会科学PBL学習	2				
	法 学	2	ス ポ ー ツ 文 化 論	2			自然科学基礎探究	2				
	現 代 社 会 学	2	ス ポ ー ツ A	1			自然科学実践探究	2				
	政 治 学	2	ス ポ ー ツ B	1			自然科学PBL学習	2				
	数 学	2	ス ポ ー ツ C	1			スポーツ健康科学基礎探究	2				
	生 物 学	2	吹 田 学	2			スポーツ健康科学実践探究	2				
	地 球 と 宇 宙 の 科 学	2	教 養 特 別 講 義 A	2			スポーツ健康科学PBL学習	2				
			教 養 特 別 講 義 B	2								
言 語	* 英 語 A	1	実 践 英 語 A	2					1外国語4単位（＊印の科目を修得）以上			
	* 英 語 B	1	実 践 英 語 B	2								
	* 英 語 C	1	実 践 英 語 C	2								
	* 英 語 D	1	実 践 英 語 D	2								
	*ドイツ語入門Ⅰ	2	ド イ ツ 語 応 用 B	2								
	*ドイツ語入門Ⅱ	2	ド イ ツ 語 応 用 C	2								
	ド イ ツ 語 応 用 A	2	ド イ ツ 語 応 用 D	2								
	*フランス語入門Ⅰ	2	フ ラ ン ス 語 応 用 B	2								
	*フランス語入門Ⅱ	2	フ ラ ン ス 語 応 用 C	2								
	フ ラ ン ス 語 応 用 A	2	フ ラ ン ス 語 応 用 D	2								
	*中国語入門Ⅰ	2	中 国 語 応 用 B	2								
	*中国語入門Ⅱ	2	中 国 語 応 用 C	2								
	中 国 語 応 用 A	2	中 国 語 応 用 D	2								
	*韓国語入門Ⅰ	2	韓 国 語 応 用 B	2								
	*韓国語入門Ⅱ	2	韓 国 語 応 用 C	2								
韓 国 語 応 用 A	2	韓 国 語 応 用 D	2									
						特 修 外 国 語 A	2					
						特 修 外 国 語 B	2					
	* 日 本 語 Ⅰ	2								外国人留学生および帰国子女対象の科目		
	* 日 本 語 Ⅱ	2										
実 務 基 礎	キャリアデザイン入門Ⅰ	2	ア ス リ ー ト 指 導 論	2	A I 活 用 入 門 B	1	キャリアデザイン入門Ⅱ	2	キャリアデザインⅢ	2	修得した単位は、卒業単位数に充当できる。	
	税 務 ・ 会 計 入 門	2	生 涯 ス ポ ー ツ 指 導 論	2			キャリアデザインⅠ	2				
	財 務 ・ 会 計 入 門	2	生 涯 学 習 概 論	2			キャリアデザインⅡ	2				
	不 動 産 学 入 門 A	2	図 書 館 概 論	2			A I 入 門 演 習	2				
	不 動 産 学 入 門 B	2	博 物 館 概 論	2								
	不 動 産 鑑 定 理 論 入 門	2	日 本 語 教 育 概 論	2								
	I T 実 務 入 門	2	行 動 科 学 概 論 A	2								
	公 務 員 入 門	2	行 動 科 学 概 論 B	2								
	ス ポ ー ツ 指 導 論	2	A I 活 用 入 門 A	1								

注) 1. *印の科目は、必修科目を示す。

2. 「リベラルアーツ入門」を修得済み又は同時履修をしなければ、「人文芸術基礎探究・実践探究・PBL学習」「社会科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「自然科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「スポーツ健康科学基礎探究・実践探究・PBL学習」を履修できない。

3. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、入門Ⅰを修得しなければ、原則として入門Ⅱを履修できない。

4. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、応用A～Dを履修するには原則として入門Ⅰを修得済み又は、同時履修をしなければならない。

5. 「A I 活用入門A」「A I 活用入門B」の単位を修得しなければ「A I 入門演習」を履修できない。

6. ○印の科目は集中講義を示し、履修するには各科目で実施する説明会への参加が必要である。

授 業 科 目 一 覧

〔共通科目〕

	1 年次配当科目				2 年次配当科目		3 年次配当科目		卒 業 必 要 単 位 数
	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	
教 初 年 育 次	0 G U 教 育 フ レ ッ シ ュ マ ン ス キ ル	1 1							1年次前期に「OGU教育」「フレッシュマンスキル」を履修すること。 修得した単位は、卒業単位数に充当できる。
教 養	哲 学	2	物 理 学	2	○インターンシッププログラムⅡ	2			10単位以上
	倫 理 学	2	化 学	2	○海外研修Ⅱ	2			
	宗 教 学	2	コ ン ピ ュ ー タ 演 習	2	人 文 芸 術 基 礎 探 究	2			
	歴 史 学	2	健 康 科 学 論	2	人 文 芸 術 実 践 探 究	2			
	文 学	2	ス ポ ー ツ 科 学 論	2	人 文 芸 術 P B L 学 習	2			
	国 語 学	2	ス ポ ー ツ 文 化 論	2	社 会 科 学 基 礎 探 究	2			
	文 化 と 芸 術	2	ス ポ ー ツ A	1	社 会 科 学 実 践 探 究	2			
	経 済 と 社 会	2	ス ポ ー ツ B	1	社 会 科 学 P B L 学 習	2			
	法 則 と 社 会	2	ス ポ ー ツ C	1	自 然 科 学 基 礎 探 究	2			
	現 代 法 学	2	吹 養 特 別 講 義 学	2	自 然 科 学 実 践 探 究	2			
	社 会 学	2	教 養 特 別 講 義 A	2	自 然 科 学 P B L 学 習	2			
	政 治 学	2	教 養 特 別 講 義 B	2	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 基 礎 探 究	2			
	数 学	2	○ボランティア研修	2	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 実 践 探 究	2			
	生 物 学	2	○インターンプログラムⅠ	2	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 P B L 学 習	2			
	地 球 と 宇 宙 の 科 学	2	○海外研修Ⅰ	2					
	地 理 学	2	リベラルアーツ入門	2					
	統 計 学	2							
	心 理 学	2							
言 語	* 英 語 A	1	実 践 英 語 A	2	特 修 外 国 語 A	2			1外国語4単位（*印の科目を修得）以上
	* 英 語 B	1	実 践 英 語 B	2	特 修 外 国 語 B	2			
	* 英 語 C	1	実 践 英 語 C	2					
	* 英 語 D	1	実 践 英 語 D	2					
	* ド イ ツ 語 入 門 Ⅰ	2	ド イ ツ 語 応 用 A	2					
	* ド イ ツ 語 入 門 Ⅱ	2	ド イ ツ 語 応 用 B	2					
			ド イ ツ 語 応 用 C	2					
			ド イ ツ 語 応 用 D	2					
	* フ ラ ン ス 語 入 門 Ⅰ	2	フ ラ ン ス 語 応 用 A	2					
	* フ ラ ン ス 語 入 門 Ⅱ	2	フ ラ ン ス 語 応 用 B	2					
			フ ラ ン ス 語 応 用 C	2					
			フ ラ ン ス 語 応 用 D	2					
	* 中 国 語 入 門 Ⅰ	2	中 国 語 応 用 A	2					
	* 中 国 語 入 門 Ⅱ	2	中 国 語 応 用 B	2					
			中 国 語 応 用 C	2					
			中 国 語 応 用 D	2					
	* 韓 国 語 入 門 Ⅰ	2	韓 国 語 応 用 A	2					外国人留学生および帰国子女対象の科目
	* 韓 国 語 入 門 Ⅱ	2	韓 国 語 応 用 B	2					
			韓 国 語 応 用 C	2					
			韓 国 語 応 用 D	2					
実 務 基 礎	* 日 本 語 Ⅰ	2							修得した単位は、卒業単位数に充当できる。
	* 日 本 語 Ⅱ	2							
	キャリアデザイン入門Ⅰ	2	生涯スポーツ指導論	2	キャリアデザイン入門Ⅱ	2	キャリアデザインⅢ	2	
	税 務 ・ 会 計 入 門	2	生 涯 学 習 概 論	2	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ	2			
	財 務 ・ 会 計 入 門	2	図 書 館 概 論	2	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ	2			
	不 動 産 学 入 門 A	2	博 物 館 概 論	2	A Ⅰ 入 門 演 習	2			
	不 動 産 学 入 門 B	2	日 本 語 教 育 概 論	2					
	不 動 産 鑑 定 理 論 入 門	2	行 動 科 学 概 論 A	2					
	I T 実 務 入 門	2	行 動 科 学 概 論 B	2					
	公 務 員 入 門	2	A Ⅰ 活 用 入 門 A	1					
	ス ポ ー ツ 指 導 論	2	A Ⅰ 活 用 入 門 B	1					
	ア ス リ ー ト 指 導 論	2							

- 注) 1. *印の科目は必修科目を示す。
2. 「リベラルアーツ入門」を修得済み又は同時履修をしなければ、「人文芸術基礎探究・実践探究・PBL学習」「社会科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「自然科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「スポーツ健康科学基礎探究・実践探究・PBL学習」を履修できない。
3. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、入門Ⅰを修得しなければ、原則として入門Ⅱを履修できない。
4. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、A～Dを履修するには原則として入門Ⅰを修得済み又は、同時履修をしなければならない。
5. ○印の科目は集中講義を示し、履修するには各科目で実施する説明会への参加が必要である。
6. 「AⅠ活用入門A」「AⅠ活用入門B」の単位を修得しなければ「AⅠ入門演習」を履修できない。

授 業 科 目 一 覧

〔共通科目〕

	1年次配当科目				2年次配当科目				3年次配当科目				卒業必要単位数
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
初年次	OGU教育 フレッシュマンスキル	1											1年次前期に「OGU教育」「フレッシュマンスキル」を履修すること。 修得した単位は、卒業単位数に充当できる。
教 養	哲学	2	物理学	2	○インターンプログラムⅡ	2							6単位以上
	倫理	2	化学	2	○海外研修Ⅱ	2							
	宗教	2	コンピュータ演習	2	人文芸術基礎探究Ⅱ	2							
	歴史	2	健康科学論	2	人文芸術基礎探究Ⅱ	2							
	文学	2	スポーツ科学論	2	人文芸術実践探究Ⅱ	2							
	国語	2	スポーツ文化論	2	人文芸術PBL学習Ⅱ	2							
	文化と芸術	2	スポーツ文化論	2	社会科学基礎探究Ⅱ	2							
	経済と社会	2	スポーツ文化論	2	社会科学実践探究Ⅱ	2							
	法と社会	2	スポーツ文化論	2	社会科学PBL学習Ⅱ	2							
	現代憲法	2	吹田学	2	自然科学基礎探究Ⅱ	2							
	社会学	2	吹田学	2	自然科学実践探究Ⅱ	2							
	政治学	2	教養特別講義A	2	自然科学PBL学習Ⅱ	2							
	数学	2	教養特別講義B	2	スポーツ健康科学基礎探究Ⅱ	2							
	生物	2	教養特別講義C	2	スポーツ健康科学実践探究Ⅱ	2							
	地球と宇宙の科学	2	○ボランティア研究	2	スポーツ健康科学PBL学習Ⅱ	2							
	地球物理学	2	○インターンプログラムⅠ	2									
	統計学	2	○海外研修Ⅰ	2									
	心理学	2	リベラルアーツ入門	2									
言 語	英語A	1	実践英語A	2									英語以外の1外国語4単位（*印の科目を修得）以上
	英語B	1	実践英語B	2									
	英語C	1	実践英語C	2									
	英語D	1	実践英語D	2									
	*ドイツ語入門Ⅰ	2	ドイツ語応用A	2									
	*ドイツ語入門Ⅱ	2	ドイツ語応用B	2									
			ドイツ語応用C	2									
			ドイツ語応用D	2									
	*フランス語入門Ⅰ	2	フランス語応用A	2									
	*フランス語入門Ⅱ	2	フランス語応用B	2									
			フランス語応用C	2									
実 務 基 礎	*中国語入門Ⅰ	2	中国語応用A	2									外国人留学生および帰国子女対象の科目
	*中国語入門Ⅱ	2	中国語応用B	2									
			中国語応用C	2									
			中国語応用D	2									
	*韓国語入門Ⅰ	2	韓国語応用A	2									
	*韓国語入門Ⅱ	2	韓国語応用B	2									
			韓国語応用C	2									
			韓国語応用D	2									
					特修外国語A	2							
					特修外国語B	2							
	*日本語Ⅰ	2											
	*日本語Ⅱ	2											
実 務 基 礎	キャリアデザイン入門Ⅰ	2	生涯スポーツ指導論	2	キャリアデザイン入門Ⅱ	2	キャリアデザインⅢ	2					修得した単位は、卒業単位数に充当できる。
	税務・会計入門	2	生涯学習概論	2	キャリアデザインⅠ	2							
	財務・会計入門	2	図書館概論	2	キャリアデザインⅡ	2							
	不動産学入門A	2	博物館概論	2	AⅠ入門演習	2							
	不動産学入門B	2	日本語教育概論	2									
	不動産鑑定理論入門	2	行動科学概論A	2									
	IⅠ実務入門	2	行動科学概論B	2									
	公務員入門	2	AⅠ活用入門A	1									
	スポーツ指導論	2	AⅠ活用入門B	1									
	アスリート指導論	2											

注) 1. *印の科目は必修科目を示す。

2. 「リベラルアーツ入門」を修得済み又は同時履修をしなければ、「人文芸術基礎探究・実践探究・PBL学習」「社会科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「自然科学基礎探究・実践探究・PBL学習」

「スポーツ健康科学基礎探究・実践探究・PBL学習」を履修できない。

3. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、入門Ⅰを修得しなければ、原則として入門Ⅱを履修できない。

4. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、A～Dを履修するには原則として入門Ⅰを修得済み又は、同時履修をしなければならない。

5. ○印の科目は集中講義を示し、履修するには各科目で実施する説明会への参加が必要である。

6. 「AⅠ活用入門A」「AⅠ活用入門B」の単位を修得しなければ「AⅠ入門演習」を履修できない。

授 業 科 目 一 覧

〔共通科目〕

[illegible]

- 注) 1. *印の科目は必修科目を示す。
2. 「リベラルアーツ入門」を修得済み又は同時履修をしなければ、「人文芸術基礎探究・実践探究・PBL学習」「社会科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「自然科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「スポーツ健康科学基礎探究・実践探究・PBL学習」を履修できない。
3. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、入門Ⅰを修得しなければ、原則として入門Ⅱを履修できない。
4. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、A～Dを履修するには原則として入門Ⅰを修得済み又は、同時履修をしなければならない。
5. O印の科目は集中講義を示し、履修するには各科目で実施する説明会への参加が必要である。
6. 「AⅠ活用入門A」「AⅠ活用入門B」の単位を修得しなければ「AⅠ入門演習」を履修できない。

授 業 科 目 一 覧

〔共通科目〕

	1 年次配当科目				2 年次配当科目				3 年次配当科目				卒 業 必 要 単 位 数
	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	授 業 科 目	単位	
初 年 次	0 G U 教 育 フ レ ッ シ ュ マ ン ス キ ル	1 1											1年次前期に「OGU教育」「フレッシュマンスキル」を履修すること。 修得した単位は、卒業単位数に充当できる。
教 養	哲 倫 理 学	2	物 理 学	2	○インターンフ゜ロク゜ラムⅡ	2							数学2単位を含む10単位以上
	倫 理 学	2	化 学	2	○海外研修Ⅱ	2							
	宗 教 学	2	コ ン ピ ュ ー タ 演 習	2	人 文 芸 術 基 礎 探 究	2							
	歴 史 学	2	健 康 科 学 論	2	人 文 芸 術 実 践 探 究	2							
	文 学	2	ス ポ ー ツ 科 学 論	2	人 文 芸 術 P B L 学 習	2							
	国 語 学	2	ス ポ ー ツ 文 化 論	2	社 会 科 学 基 礎 探 究	2							
	文 化 と 芸 術 学	2	ス ポ ー ツ A	1	社 会 科 学 実 践 探 究	2							
	経 済 と 社 会 学	2	ス ポ ー ツ B	1	社 会 科 学 P B L 学 習	2							
	法 治 と 社 会 学	2	ス ポ ー ツ C	1	自 然 科 学 基 礎 探 究	2							
	現 代 憲 法 学	2	吹 田 学	2	自 然 科 学 実 践 探 究	2							
	社 会 学	2	教 養 特 別 講 義 A	2	自 然 科 学 P B L 学 習	2							
	政 治 学	2	教 養 特 別 講 義 B	2	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 基 礎 探 究	2							
	数 学	2	○ボランティア研修	2	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 実 践 探 究	2							
	生 物 学	2	○インターンプログラムⅠ	2	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 P B L 学 習	2							
	地 球 と 宇 宙 の 科 学	2	○海外研修Ⅰ	2									
	地 理 学	2	リベラルアーツ入門	2									
	統 計 学	2											
	心 理 学	2											
言 語	* 英 語 A	1	実 践 英 語 A	2									1外国語4単位（＊印の科目を修得）以上
	* 英 語 B	1	実 践 英 語 B	2									
	* 英 語 C	1	実 践 英 語 C	2									
	* 英 語 D	1	実 践 英 語 D	2									
	* ドイツ語入門Ⅰ	2	ド イ ツ 語 応 用 A	2									
	* ドイツ語入門Ⅱ	2	ド イ ツ 語 応 用 B	2									
			ド イ ツ 語 応 用 C	2									
			ド イ ツ 語 応 用 D	2									
	* フランス語入門Ⅰ	2	フ ラ ン ス 語 応 用 A	2									
	* フランス語入門Ⅱ	2	フ ラ ン ス 語 応 用 B	2									
			フ ラ ン ス 語 応 用 C	2									
			フ ラ ン ス 語 応 用 D	2									
	* 中国語入門Ⅰ	2	中 国 語 応 用 A	2									
	* 中国語入門Ⅱ	2	中 国 語 応 用 B	2									
実 務 基 礎			中 国 語 応 用 C	2									修得した単位は、卒業単位数に充当できる。
			中 国 語 応 用 D	2									
	* 韓国語入門Ⅰ	2	韓 国 語 応 用 A	2									
	* 韓国語入門Ⅱ	2	韓 国 語 応 用 B	2									
			韓 国 語 応 用 C	2									
			韓 国 語 応 用 D	2									
					特 修 外 国 語 A	2							
					特 修 外 国 語 B	2							
	* 日 本 語 Ⅰ	2											
	* 日 本 語 Ⅱ	2											
実 務 基 礎	キャリアデザイン入門Ⅰ	2	生 涯 ス ポ ー ツ 指 導 論	2	キャリアデザイン入門Ⅱ	2	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅲ	2					修得した単位は、卒業単位数に充当できる。
	税 務 ・ 会 計 入 門	2	生 涯 学 習 概 論	2	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅰ	2							
	財 務 ・ 会 計 入 門	2	図 書 館 概 論	2	キ ャ リ ア デ ザ イ ン Ⅱ	2							
	不 動 産 学 入 門 A	2	博 物 館 概 論	2	A Ⅰ 入 門 演 習	2							
	不 動 産 学 入 門 B	2	日 本 語 教 育 概 論	2									
	不 動 産 鑑 定 理 論 入 門	2	行 動 科 学 概 論 A	2									
	I T 実 務 入 門	2	行 動 科 学 概 論 B	2									
	公 務 員 入 門	2	A Ⅰ 活 用 入 門 A	1									
	ス ポ ー ツ 指 導 論	2	A Ⅰ 活 用 入 門 B	1									
	ア ス リ ー ト 指 導 論	2											

注) 1. ＊印の科目は必修科目を示す。
2. 「リベラルアーツ入門」を修得済み又は同時履修をしなければ、「人文芸術基礎探究・実践探究・PBL学習」「社会科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「自然科学基礎探究・実践探究・PBL学習」「スポーツ健康科学基礎探究・実践探究・PBL学習」を履修できない。
3. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、入門Ⅰを修得しなければ、原則として入門Ⅱを履修できない。
4. 「言語」区分のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語において、A～Dを履修するには原則として入門Ⅰを修得済み又は、同時履修をしなければならない。
5. ○印の科目は集中講義を示し、履修するには各科目で実施する説明会への参加が必要である。
6. 「AⅠ活用入門A」「AⅠ活用入門B」の単位を修得しなければ「AⅠ入門演習」を履修できない。

共通科目 カリキュラム・マップ

【養成する能力】

- ① 社会人として必要な素養と豊かな人間性を身につけている。
- ② 異なる国や地域の文化を理解し、互いに尊重し合う資質や態度を身につけている。
- ③ 組織・社会における協調性、協働性、規範意識や責任を身につけている。
- ④ 獲得した知識・技能を活用する態度や行動力を身につけている。

【養成する能力との関連】

凡例

◎：達成するために特に重要な目標

○：達成のために重要な目標

△：達成のために望ましい目標

				養成する能力との関連			
科目ナンバリング	科目群	分類	授業科目名	①	②	③	④
GE_A10100	初年次教育		OGU教育	◎		◎	△
GE_A10200	初年次教育		フレッシュマンスキル	◎		◎	△
GE_B10100	教養	人文	哲学	◎	○	△	
GE_B10200	教養	人文	倫理学	◎		○	△
GE_B10300	教養	人文	宗教学	◎	○	△	
GE_B10400	教養	人文	歴史学	◎	○	△	
GE_B10500	教養	人文	文学	◎	△	○	
GE_B10600	教養	人文	国語学	◎	○	△	
GE_B10700	教養	人文	文化と芸術	◎		△	○
GE_B10800	教養	社会	経済と社会	◎	○	△	
GE_B10900	教養	社会	法と社会	◎		○	△
GE_B11000	教養	社会	現代憲法	◎		○	△
GE_B11100	教養	社会	社会学	◎	○		△
GE_B11200	教養	社会	政治学	◎		○	△
GE_B11300	教養	自然	数学	◎			◎
GE_B11400	教養	自然	生物学	◎	○		△
GE_B11500	教養	自然	地球と宇宙の科学	◎	○		△
GE_B11600	教養	自然	地理学	◎	◎		
GE_B11700	教養	自然	統計学	◎			◎
GE_B11800	教養	自然	心理学	◎			◎
GE_B11900	教養	自然	物理学	◎			◎
GE_B12000	教養	自然	化学	◎			◎
GE_B12120	教養	情報	コンピュータ演習	◎		○	△
GE_B12200	教養	健康・スポーツ	健康科学論	◎		○	△
GE_B12300	教養	健康・スポーツ	スポーツ科学論	◎		○	△
GE_B12400	教養	健康・スポーツ	スポーツ文化論	◎			◎
GE_B12510	教養	健康・スポーツ	スポーツ A	◎		○	△
GE_B12610	教養	健康・スポーツ	スポーツ B	◎		○	△

GE_B12710	教養	健康・スポーツ	スポーツ C	◎		○	△
GE_B12800	教養	総合(講義型)	吹田学	◎		○	△
GE_B12900	教養	総合(講義型)	教養特別講義 A	◎	◎		
GE_B13000	教養	総合(講義型)	教養特別講義 B	◎	◎		
GE_B13140	教養	総合(活動型)	ボランティア研修	◎		○	△
GE_B13240	教養	総合(活動型)	インターンプログラム I	◎		○	△
GE_B13340	教養	総合(活動型)	海外研修 I	◎	◎		
GE_B13400	教養	総合(講義型)	リベラルアーツ入門	◎		○	△
GE_B20140	教養	総合(活動型)	インターンプログラム II	◎		○	△
GE_B20240	教養	総合(活動型)	海外研修 II	◎	◎		
GE_B20300	教養	人文	人文芸術基礎探究	◎	△		○
GE_B20400	教養	人文	人文芸術実践探究	◎	△		○
GE_B20500	教養	人文	人文芸術 PBL 学習	◎	△		○
GE_B20600	教養	社会	社会科学基礎探究	◎		△	○
GE_B20700	教養	社会	社会科学実践探究	◎		△	○
GE_B20800	教養	社会	社会科学 PBL 学習	◎		△	○
GE_B20900	教養	自然	自然科学基礎探究	◎	△		○
GE_B21000	教養	自然	自然科学実践探究	◎	△		○
GE_B21100	教養	自然	自然科学 PBL 学習	◎	△		○
GE_B21200	教養	健康・スポーツ	スポーツ健康科学基礎探究	◎		△	○
GE_B21300	教養	健康・スポーツ	スポーツ健康科学実践探究	◎		△	○
GE_B21400	教養	健康・スポーツ	スポーツ健康科学 PBL 学習	◎		△	○
GE_C10112	言語	英語	英語A	◎	◎		
GE_C10212	言語	英語	英語B	◎	◎		
GE_C10312	言語	英語	英語C	◎	◎		
GE_C10412	言語	英語	英語D	◎	◎		
GE_C10512	言語	英語	実践英語 A	◎	◎		
GE_C10612	言語	英語	実践英語 B	◎	◎		
GE_C10712	言語	英語	実践英語 C	◎	◎		
GE_C10812	言語	英語	実践英語 D	◎	◎		
GE_D10110	言語	ドイツ語	ドイツ語入門 I	◎	◎		
GE_D10210	言語	ドイツ語	ドイツ語入門 II	◎	◎		
GE_D10314	言語	ドイツ語	ドイツ語応用 A	◎	◎		
GE_D10414	言語	ドイツ語	ドイツ語応用 B	◎	◎		
GE_D10514	言語	ドイツ語	ドイツ語応用 C	◎	◎		
GE_D10614	言語	ドイツ語	ドイツ語応用 D	◎	◎		
GE_E10110	言語	フランス語	フランス語入門 I	◎	◎		
GE_E10210	言語	フランス語	フランス語入門 II	◎	◎		

GE_E10314	言語	フランス語	フランス語応用 A	◎	◎		
GE_E10414	言語	フランス語	フランス語応用 B	◎	◎		
GE_E10514	言語	フランス語	フランス語応用 C	◎	◎		
GE_E10614	言語	フランス語	フランス語応用 D	◎	◎		
GE_F10110	言語	中国語	中国語入門Ⅰ	◎	◎		
GE_F10210	言語	中国語	中国語入門Ⅱ	◎	◎		
GE_F10314	言語	中国語	中国語応用 A	◎	◎		
GE_F10414	言語	中国語	中国語応用 B	◎	◎		
GE_F10514	言語	中国語	中国語応用 C	◎	◎		
GE_F10614	言語	中国語	中国語応用 D	◎	◎		
GE_G10110	言語	韓国語	韓国語入門Ⅰ	◎	◎		
GE_G10210	言語	韓国語	韓国語入門Ⅱ	◎	◎		
GE_G10314	言語	韓国語	韓国語応用 A	◎	◎		
GE_G10414	言語	韓国語	韓国語応用 B	◎	◎		
GE_G10514	言語	韓国語	韓国語応用 C	◎	◎		
GE_G10614	言語	韓国語	韓国語応用 D	◎	◎		
GE_H20110	言語	その他言語	特修外国語 A	◎	◎		
GE_H20210	言語	その他言語	特修外国語 B	◎	◎		
GE_J10110	言語	日本語	日本語Ⅰ	◎	◎		
GE_J10210	言語	日本語	日本語Ⅱ	◎	◎		
GE_J10100	実務基礎		キャリアデザイン入門Ⅰ	◎		○	△
GE_J10200	実務基礎		税務・会計入門	◎		○	△
GE_J10300	実務基礎		財務・会計入門	◎		○	△
GE_J10400	実務基礎		不動産学入門A	◎		○	△
GE_J10500	実務基礎		不動産学入門B	◎		○	△
GE_J10600	実務基礎		不動産鑑定理論入門	◎		○	△
GE_J10700	実務基礎		IT実務入門	◎		○	△
GE_J10800	実務基礎		公務員入門	◎		○	△
GE_J10900	実務基礎		スポーツ指導論	◎		○	△
GE_J11000	実務基礎		アスリート指導論	◎		○	△
GE_J11100	実務基礎		生涯スポーツ指導論	◎		○	△
GE_J11200	実務基礎		生涯学習概論	◎		○	△
GE_J11300	実務基礎		図書館概論	◎		○	△
GE_J11400	実務基礎		博物館概論	◎		○	△
GE_J11500	実務基礎		日本語教育概論	◎		○	△
GE_J11600	実務基礎		行動科学概論A	◎		△	○
GE_J11700	実務基礎		行動科学概論B	◎		△	○
GE_J11800	実務基礎		AI活用入門A	◎			◎

GE_J11900	実務基礎	AI活用入門B	◎			◎
GE_J20100	実務基礎	キャリアデザイン入門Ⅱ	◎		○	△
GE_J20200	実務基礎	キャリアデザインⅠ	◎		△	○
GE_J20300	実務基礎	キャリアデザインⅡ	○		◎	△
GE_J20420	実務基礎	AI入門演習	○		△	◎
GE_J30100	実務基礎	キャリアデザインⅢ	○		◎	△

大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部 教育開発支援センター規程

(名称)

- 第 1 条 本学に、大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部 教育開発支援センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

- 第 2 条 センターは、本学における全学的な教育システムの開発、並びに教育活動の改革及び改善(Faculty Development、Staff Development)を支援し、大学教育の充実及び高度化に資することを目的とする。

(事業)

- 第 3 条 センターは前条の目的を達成するために、関係部局と連携し、次の事業を行う。
- (1) 学部・教学機関の教育システム等に対する支援
 - (2) 学生の修学等に対する支援
 - (3) 教職員の教育活動等に対する支援
 - (4) その他、センターの目的達成のために必要な事業

(組織)

- 第 4 条 センターに所長（1 名）、副所長（若干名）、所員（若干名）を置く。
2. 所長は、センターを代表し、センターの事業を統括する。
 3. 副所長は、所長を補佐し、所員とともに、前条に定める事業の遂行にあたる。
 4. 所員は、センターの目的達成のために必要な職務を行う。

(任免)

- 第 5 条 所長、副所長及び所員は、学長(総長)が委嘱する。
2. 所長、副所長及び所員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。但し、任期中に交代したときは、前任者の残任期間をもって任期とする。

(センター会議)

- 第 6 条 センターに「教育開発支援センター会議（以下「センター会議」という。）」を置き、センター事業の運営等について協議する。
2. センター会議は、所長、副所長、所員及び所長が必要と認めた者をも

って構成する。

3. 学長(総長)は、センター会議に随時出席することができる。
4. センター会議は、所長がこれを招集し、その議長となる。
5. センター会議は、必要に応じて専門部会を設けることができる。

(事務職員)

第 7 条 センターに、事務職員（若干名）を置く。

(雑則)

第 8 条 本規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

本規程は、平成 18 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

本規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本規程は、令和 5 年 10 月 1 日から施行する。

全学 AI 教育推進会議の設置について

人工知能（AI）技術は、近年、加速度的に発展しており、世界各地でその応用が進むことにより、広範な産業領域や社会インフラ等に大きな影響を与えている。これを受け、我が国においても、「AI 戦略 2019」（2019 年 6 月 11 日 統合イノベーション戦略推進会議決定）の下、世界規模の課題（SDGs）の解決等にも活用できるよう、官民挙げての一体的取組みが始まったところである。

同戦略の目標には「AI 時代に対応した人材の育成」が掲げられており、全ての高等学校卒業生に、データサイエンス・AI の基礎となる理数素養や基本的情報知識を習得させるとともに、文理を問わず全ての大学生に初級レベルの数理・データサイエンス・AI リテラシーを習得させる旨明記されており、大学には、AI に係る応用基礎教育やエキスパート教育が求められている。

そこで、上述した社会的要請に応え、AI を使いこなす基盤的能力を広く育むことをねらいとし、情報学部での教育成果等、本学の特色も採り入れたプログラムを 2020 年 4 月から始動するため、以下のとおり時限的な検討組織を設置する。

1. 組織名称

全学 AI 教育推進会議

2. 構成員

白川 雄三 教授（議長）、石倉 弘樹 教授、寺井 正幸 教授、淡 誠一郎 教授、
西田 知博 教授
事務局 若干名

3. 検討事項

- （1）大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部における AI 共通教育の体制・内容・方法等（教員配置や環境整備を含む）
- （2）各学部・学科内で AI との関連が見受けられる科目との内容調整 及び 専門（応用）教育との接続
- （3）その他 AI 教育の普及・促進に関すること

4. 会議の開催

原則として月 1 回以上、議長が招集し、会議を開催するものとする。

5. 担当部局

教育開発支援センター

6. 設置時期

2019 年 11 月 1 日

7. その他

プログラム始動（2020 年 4 月）後、推進会議の機能は、教育開発支援センター会議の下に設ける専門部会へ引き継ぐものとする。

以 上

AI 教育の全学的推進について

今後、益々の進展が予測されるデジタル社会において、必須リテラシーとなる「AI」の正確な理解を深め、その可能性や多様な活用法について考究する機会を学部・学科の別なく提供できるよう、以下のとおり全学的な基本方針を制定するとともに、「AI 戦略等を踏まえた AI 人材の育成について」（2019 年 11 月 1 日）をはじめとする諸施策の動向や世界の潮流と適合し、且つ本学のこれまでの教育実績や研究成果を盛り込んだ科目を設置する。

1. 基本方針

本学は、人間の尊厳が尊重され、多様性を内包した持続可能な社会に向けて、AI やそれに関連する基礎知識を持ち、活用することで現実の諸問題を解決できる能力を広く育み、新しい価値の創造に主体的に関わろうとする人材を育成する。

2. 科目の新設

2020 年度入学生より、「共通科目」の「実務基礎」区分に次の 3 科目を設置する。

(1) 「AI 活用入門 A」1 単位、1 年次配当

科目概要： AI 活用できる人材として社会で活躍するための基礎的な知識を修得することを目的とし、Society5.0 の社会における産業構造の変化や今後必要とされるスキルなど社会背景に関する知識、AI 技術に関する基礎知識、AI を活用するために必要な基礎知識を学ぶ。

(2) 「AI 活用入門 B」1 単位、1 年次配当

科目概要： AI（人工知能）という言葉がビジネス社会の中で多く使われるようになってきているが、その言葉の定義ははっきりしていない。最初に AI とは何なのかを出来るだけ整理して理解することを試みる。次に AI がビジネスに役に立ち始めた中心技術であると考えられるディープラーニングの内容について比較的簡単な数学から考える。そして AI の仕組みや行っている作業内容から、その進歩の方向や出来ることの限界を考える。最後に AI が活躍する社会のビジネスマン像を描き、学生時代に学んでおくべきことがらについて考察する。

(3) 「AI 入門演習」2 単位、2 年次配当

科目概要： 近年の人工知能技術の発展には目を見はるものがある。今後急速に社会に浸透し、私たちの生活に大きく影響を与えることは間違いない。人工知能は従来人が行ってきた知的営みを機械で肩代わりさせる技術である。このため、将来いかなる分野へ進むにしても、何らかの関わりを持つことになる。この科目では、先行する人工知能の基礎科目をすでに受講し、基礎的な知識を身につけていることを前提に、人工知能技術の中核である機械学習を中心に紹介し、演習を通して理解を深める。

以 上

大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部 教育開発支援センター規程

(名称)

- 第 1 条 本学に、大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部 教育開発支援センター（以下「センター」という。）を置く。

(目的)

- 第 2 条 センターは、本学における全学的な教育システムの開発、並びに教育活動の改革及び改善(Faculty Development、Staff Development)を支援し、大学教育の充実及び高度化に資することを目的とする。

(事業)

- 第 3 条 センターは前条の目的を達成するために、関係部局と連携し、次の事業を行う。
- (1) 学部・教学機関の教育システム等に対する支援
 - (2) 学生の修学等に対する支援
 - (3) 教職員の教育活動等に対する支援
 - (4) その他、センターの目的達成のために必要な事業

(組織)

- 第 4 条 センターに所長（1 名）、副所長（若干名）、所員（若干名）を置く。
2. 所長は、センターを代表し、センターの事業を統括する。
 3. 副所長は、所長を補佐し、所員とともに、前条に定める事業の遂行にあたる。
 4. 所員は、センターの目的達成のために必要な職務を行う。

(任免)

- 第 5 条 所長、副所長及び所員は、学長(総長)が委嘱する。
2. 所長、副所長及び所員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。但し、任期中に交代したときは、前任者の残任期間をもって任期とする。

(センター会議)

- 第 6 条 センターに「教育開発支援センター会議（以下「センター会議」という。）」を置き、センター事業の運営等について協議する。
2. センター会議は、所長、副所長、所員及び所長が必要と認めた者をも

って構成する。

3. 学長(総長)は、センター会議に随時出席することができる。
4. センター会議は、所長がこれを招集し、その議長となる。
5. センター会議は、必要に応じて専門部会を設けることができる。

(事務職員)

第 7 条 センターに、事務職員（若干名）を置く。

(雑則)

第 8 条 本規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

本規程は、平成 18 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

本規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

本規程は、令和 5 年 10 月 1 日から施行する。

全学 AI 教育推進会議の設置について

人工知能（AI）技術は、近年、加速度的に発展しており、世界各地でその応用が進むことにより、広範な産業領域や社会インフラ等に大きな影響を与えている。これを受け、我が国においても、「AI 戦略 2019」（2019 年 6 月 11 日 統合イノベーション戦略推進会議決定）の下、世界規模の課題（SDGs）の解決等にも活用できるよう、官民挙げての一体的取組みが始まったところである。

同戦略の目標には「AI 時代に対応した人材の育成」が掲げられており、全ての高等学校卒業生に、データサイエンス・AI の基礎となる理数素養や基本的情報知識を習得させるとともに、文理を問わず全ての大学生に初級レベルの数理・データサイエンス・AI リテラシーを習得させる旨明記されており、大学には、AI に係る応用基礎教育やエキスパート教育が求められている。

そこで、上述した社会的要請に応え、AI を使いこなす基盤的能力を広く育むことをねらいとし、情報学部での教育成果等、本学の特色も採り入れたプログラムを 2020 年 4 月から始動するため、以下のとおり時限的な検討組織を設置する。

1. 組織名称

全学 AI 教育推進会議

2. 構成員

白川 雄三 教授（議長）、石倉 弘樹 教授、寺井 正幸 教授、淡 誠一郎 教授、
西田 知博 教授
事務局 若干名

3. 検討事項

- （1）大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部における AI 共通教育の体制・内容・方法等（教員配置や環境整備を含む）
- （2）各学部・学科内で AI との関連が見受けられる科目との内容調整 及び 専門（応用）教育との接続
- （3）その他 AI 教育の普及・促進に関すること

4. 会議の開催

原則として月 1 回以上、議長が招集し、会議を開催するものとする。

5. 担当部局

教育開発支援センター

6. 設置時期

2019 年 11 月 1 日

7. その他

プログラム始動（2020 年 4 月）後、推進会議の機能は、教育開発支援センター会議の下に設ける専門部会へ引き継ぐものとする。

以 上

AI 教育の全学的推進について

今後、益々の進展が予測されるデジタル社会において、必須リテラシーとなる「AI」の正確な理解を深め、その可能性や多様な活用法について考究する機会を学部・学科の別なく提供できるよう、以下のとおり全学的な基本方針を制定するとともに、「AI 戦略等を踏まえた AI 人材の育成について」（2019 年 11 月 1 日）をはじめとする諸施策の動向や世界の潮流と適合し、且つ本学のこれまでの教育実績や研究成果を盛り込んだ科目を設置する。

1. 基本方針

本学は、人間の尊厳が尊重され、多様性を内包した持続可能な社会に向けて、AI やそれに関連する基礎知識を持ち、活用することで現実の諸問題を解決できる能力を広く育み、新しい価値の創造に主体的に関わろうとする人材を育成する。

2. 科目の新設

2020 年度入学生より、「共通科目」の「実務基礎」区分に次の 3 科目を設置する。

(1) 「AI 活用入門 A」1 単位、1 年次配当

科目概要： AI 活用できる人材として社会で活躍するための基礎的な知識を修得することを目的とし、Society5.0 の社会における産業構造の変化や今後必要とされるスキルなど社会背景に関する知識、AI 技術に関する基礎知識、AI を活用するために必要な基礎知識を学ぶ。

(2) 「AI 活用入門 B」1 単位、1 年次配当

科目概要： AI（人工知能）という言葉がビジネス社会の中で多く使われるようになってきているが、その言葉の定義ははっきりしていない。最初に AI とは何なのかを出来るだけ整理して理解することを試みる。次に AI がビジネスに役に立ち始めた中心技術であると考えられるディープラーニングの内容について比較的簡単な数学から考える。そして AI の仕組みや行っている作業内容から、その進歩の方向や出来ることの限界を考える。最後に AI が活躍する社会のビジネスマン像を描き、学生時代に学んでおくべきことがらについて考察する。

(3) 「AI 入門演習」2 単位、2 年次配当

科目概要： 近年の人工知能技術の発展には目を見はるものがある。今後急速に社会に浸透し、私たちの生活に大きく影響を与えることは間違いない。人工知能は従来人が行ってきた知的営みを機械で肩代わりさせる技術である。このため、将来いかなる分野へ進むにしても、何らかの関わりを持つことになる。この科目では、先行する人工知能の基礎科目をすでに受講し、基礎的な知識を身につけていることを前提に、人工知能技術の中核である機械学習を中心に紹介し、演習を通して理解を深める。

以 上

大学等名	大阪学院大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和6年度

取組概要

1.「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」について

本学では、2019年に時限的な検討組織である「全学AI教育推進会議」を設置し、2020年度入学生以降を対象として共通科目の「実務基礎」に、「AI活用入門A」、「AI活用入門B」、「AI入門演習」の3科目を設置した。その後、推進会議は「全学AI教育推進会議（専門部会）」へ引き継がれた。専門部会では、本学におけるAI教育のさらなる充実を図り、本学の特色とするため、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）への申請を視野に入れ、2023年度より「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を策定した。

2.教育目的

大学教育において、AIやIoTを使いこなすための知識・技能の養成が必要であり、また、社会がどのように変化しようとも、自ら考えて、目標を定めて課題を設定し、多様な人々と協働して知見や情報を組み合わせ、新しい価値の創造に主体的に関わりようとする人材の育成が求められている。本学の共通科目における「基盤的プログラム」として、これからの社会が求めるイノベーションを支える人材育成を図るとともに、特に人文・社会科学系の学生のAIリテラシー力および情報活用力を強化することを目的とする。

3.教育目標・学修成果

これからの社会が求める次の能力を身に付けることを目標とする。

- (1) 新しい価値の創造に主体的に関わる力
- (2) AIリテラシー力
- (3) 情報活用力

また、学修成果を次のとおりとする。

- (1) 数理・データサイエンスやAIについての基礎的知識を修得し、さらにこれらを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付ける。

- (2) 現代における数理・データサイエンス・AIの役割について理解して、説明できる。
- (3) 数理・データサイエンスやAIを利活用する際の留意すべき事項（個人情報、データ倫理など）を理解して、説明できる。

4.開講科目

2023年度入学生より、「共通科目」の「実務基礎」区分の3科目を「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム科目」とする。

科目名	単位数	配当年次
AI活用入門A	1	1年次
AI活用入門B	1	1年次
AI入門演習	2	2年次

5.プログラム修了要件

- (1) 「AI活用入門A」（1単位）と「AI活用入門B」（1単位）の計2単位を修得すること（「AI入門演習」（2単位）の修得は任意）。
- (2) 短期大学部で「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の履修を希望する者は、単位互換により履修することができる。
- (3) プログラム修了者には、「修了証」を与える。

6.実施体制

大阪学院大学・大阪学院大学短期大学部 教育開発支援センター規程第6条第5項「センター会議は、必要に応じて専門部会を設けることができる。」に基づき、教育開発支援センター会議の下に設ける「全学AI教育推進会議（専門部会）」として教育開発支援センターが運営している。教育開発支援センターは、この専門部会の運営を通じ、「OGU数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の企画・運営およびプログラム改善に向けた提言を行うことで、本学における「数理・データサイエンス・AI教育」を改善・進化させることを目的としている。

概要

2023年度入学生より開始。大阪学院大学における数理・データサイエンス・AI教育プログラム。特に人文・社会科学系の学生のAIリテラシー力および情報活用力を強化することを目的とする。3科目で構成され、必修化を検討中。

2023年度
プログラム開始

2024年度
履修機会増加のためクラス増を行う

2025年度以降

全学部・学科で
履修可能

商学部

経営学部

経済学部

法学部

外国語学部

国際学部

情報学部

短期大学部経営実務科※

(※単位互換により履修可能)

プログラム修了要件

「AI活用入門A」(1単位)「AI活用入門B」(1単位)の計2単位を修得すること。「AI入門演習」(2単位)の修得は任意。

第3ターム

第4ターム

AI活用入門A (1単位) 3クラス

テーマは「AIとデータサイエンスを理解し活用する」。AI活用できる人材として社会で活躍するための基礎的な知識を修得する。そして、Society5.0などの産業構造の変化や、今後必要とされるスキルなど社会背景に関する知識、AI技術に関する基礎知識、AIを活用するために必要な基礎知識を学ぶ。

AI活用入門B (1単位) 3クラス

テーマは「AI(人工知能)を活用できる人材として、社会で活躍するためのAIの知識を修得する」。AIの歴史・機械学習手法からはじめて、画像認識・音声認識・自然言語理解・ロボットなどの各分野におけるAI技術について説明する。また、AIシステムの構築方法、AIシステムの応用事例、AIの普及によって生じるさまざまな社会問題についても説明する。

AI入門演習 (2単位) 1クラス (20名) 第3ターム

「AI活用入門A」、「AI活用入門B」の単位修得者が履修可能となる科目。テーマは「データサイエンスと人工知能の基礎演習」であり、人工知能技術の中核的技術である、機械学習の技術を中心に紹介し、簡単な演習を通して人工知能の技術について理解を深める。

2024年度の実施結果をふまえ、オンデマンドコンテンツを活用した全学必修化の検討を行う。

